連載：原点

5ヶ月を振り返って

県立船橋高等学校　中村 瑞季

教員としての生活が始まってから5ヶ月が経とうとしています。3月に配属校決定の電話をいただいたときは，「私が船高で教えられるのだろうか」という不安でいっぱいでした。4月に入って授業準備のため板書計画を考える際も，書いては消しての繰り返しでした。いざ授業が始まると，特に最初の頃は簡単すぎてつまらなさそうな表情をしている生徒も多かったように感じます。そんな様子を見て，授業のスピードを上げたり，難易度の高い問題も多く扱わないと，と焦ってばかりでした。最初の定期考査では担当しているクラスの平均点が学年で一番低く，教えることの難しさを実感し，「他の先生が担当していたらこの子たちはもっと点数が取れたのかな」と思ってしまうこともありました。

4月こそつまらなさそうな表情をしている生徒が多かったのですが，授業が進むにつれて理解できていないところが増えてきたように感じました。一番印象に残っているのは，2次不等式 $x^2 < 1$ を解いて $x < 1$ としていた生徒が多かったことです。船高生ならこのくらいの計算問題はすぐ理解できると考え，あまり丁寧に指導していなかったこと，2次不等式の本質を指導できていなかったことを反省しました。このようなことが他にもあり，速く授業を進めたり難しい問題を扱ったりすることにこだわらなくても良いことに気がつきました。それよりも一つ一つの内容を濃く扱うことを意識し始めました。前回の内容の復習をする際にこまめに発問したり，「なぜか」ということを発問する回数を増やしました。効果があるかは正直まだわからないですが，退屈そうな表情が減り，真剣に考えている様子が見られるようになった点は良かったのではないかと思います。

今後は考えさせる授業を意識して授業の準備をしていきたいと思います。その際，発問を多くすることが目的にならないように気をつけたいです。記述力を高めることの必要性も定期考査を通じて実感しました。また，その日の内容だけでなく全体を見据えた指導ができるようになることも今後の課題です。

まだまだ未熟者であり上手くいかないことも多いですが，船橋高校に赴任し，本当に生徒と先生方に恵まれていると感じています。生徒は勉強，部活動，学校行事と忙しい中よく頑張っています。先生方は知識，経験が豊富な方ばかりで困った際にはアドバイスをくださり，他にも様々な場面で声をかけてくださいます。この環境で数学の指導ができることに感謝しながら，生徒の力を引き出せるようにこれからも精一杯頑張りたいと思います。